

令和 6 年 3 月

令和 5 年度自己評価報告書

世田谷区立芦花中学校

校長 井尻 郁夫

1 本校の目標及び計画

○ 教育目標

心身ともに健康で、自立した社会人の育成をめざし、次の目標を設定する。

一、自ら考え、向上しようとする人

一、責任感と思いやりのある人

一、健康でねばり強い人

○ 重点目標

- 問題の解決に向けた学びへの意欲をもち、計画的に追究し、筋道を立て考え、表現する力を育成する。 **★問題発見・問題解決力（主体性）**
- 向上心をもって主体的に取り組み、自己理解を深めながら自己肯定感、自己有用感を高めるとともに、多様な個性や自他を尊重し互いに認め合いながら人間関係を形成する力を育成する。 **★人間関係形成力（コミュニケーション能力）**
- 健全な生活習慣を身に付け、健康で安全に生活するとともに、創意工夫しながら、ものごとを最後までやり抜く力を育成する。

★豊かな人間性、体力（実践力）

○ 教育目標達成のための基本方針

- 世田谷区教育要領を踏まえ、学校教育活動全体を通して、人間尊重の精神を基盤とした教育を推進し、一人一人に生きる喜びと生命の大切さを実感させるとともに個性や能力、発達特性等の多様性の理解を深め他者と共によりよく生きるための人権教育を推進する。
- 「キャリア・未来デザイン教育」の理念を踏まえ、学び舎内の小学校等と連携した学び舎による教育活動の充実等を通して、幼稚園・小・中学校の 11 年間を見通した教育を推進する。
- 地域運営学校として、地域住民や保護者の教育活動への参画を一層推進するとともに、学校の自己評価や学校関係者評価等を学校運営に反映させることを通して、地域住民、保護者との連携及び協働により信頼される学校づくりを推進する。
- 個々の教育活動において目指すべき資質・能力を明確にして、教育活動の P D C A サイクルを推進する。
- カリキュラム・マネジメントを踏まえ、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、 S D G s や教科横断的な視点で指導計画の工夫を図る。
- 各教科等において、知識及び技能の習得、思考力、判断力、表現力等の育成、

学びに向かう力等の育成のバランスを重視して育むとともに、「個別最適な学び」と「共感・協働する学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」及び「せたがや探究的な学び」の視点からの授業改善を推進する。

- ・ 英語、数学における少人数授業や、各教科等を通じたタブレット端末等 I C T の効果的な活用、学校図書館の活用などの工夫、学びを支える人材を活用した補習等を通して、一人一人の学びを尊重した、個に応じた指導の充実を図る。
- ・ 各教科において、タブレット端末及び I C T 機器を効果的に活用し、生徒の個々の学習状況に応じた「個別最適な学び」及び探究的な学習や体験活動を通した「協働的な学び」の充実を図る。(教育D Xの推進)
- ・ 学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくため、地域等の教育資源を活用するとともに、「キャリア・パスポート」の活用を充実させ、特色あるキャリア教育を推進する。
- ・ 学校の教育活動全体を通じて道徳教育を推進するとともに、考え、議論する「特別の教科 道徳」の授業を充実させ、インクルーシブ教育の推進を図り、家庭や地域と連携して生徒がよりよく生きるために道徳性の育成を推進する。
- ・ 地域行事への参加や社会体験活動、ボランティア活動の一層の活性化を図る取組を通して、社会性を育み、社会の構成員としての自覚や他を思いやる心などの育成を推進する。
- ・ 地域社会と向き合い、関りをもちながら学ぶ活動を通して、社会をよりよくしようとする気持ちの醸成を図る取組を推進する。
- ・ 生徒の自主的・自治的活動を推進し、目標に向かって、自己の役割を自覚し、集団における協働を大切にした体験的活動等非認知能力の育成を目指した教育活動の充実を図る。
- ・ 全ての子どもたちが、多様な個性を認め合い、生かされ、共に学び共に育つインクルーシブ教育の推進を図る。
- ・ いじめ問題や様々な問題行動などの未然防止、早期発見、早期対応等解決に向け、校内体制を整え、組織的に対応するとともに、関係機関等との連携を図った取組を推進する。
- ・ 不登校の問題、集団への不適応等、様々な配慮を必要とする生徒の社会的自立を目指し、多様な学びの機会を提供するなど必要な支援をするため、一人一人に寄り添う指導体制を整備し個別の教育支援計画や個別指導計画に則った指導の充実や関係諸機関と連携を図る。
- ・ 健康、安全に関する実践的態度を育成する活動の場を工夫し、生徒が自ら健康・安全に関心をもち、主体的・継続的に実践する教育活動の充実を図るとともに、家庭と連携した健全な生活習慣の確立を推進する。

- ・ 自然災害、防災、防犯、交通、情報等の安全に対する実践的な取組を通して、自他の生命を守るための主体的に行動する態度の育成を推進する。

2 学校の概要

校 長 井尻 郁夫

学級数 1年：3学級+特支1学級、生徒数 102名

2年：3学級+特支1学級、生徒数 108名

3年：3学級+特支1学級、生徒数 99名

〒157-0063 東京都世田谷区粕谷2-22-2

TEL 03-3302-2571 FAX 03-3302-7491

創立64年目を迎える、小学校と校舎一体型の学校である。学区域は落ち着いた住宅街であり、生徒はボランティア活動等に熱心に取り組んでいる。

3 重点目標の評価

- あなたは、問題を発見した時、その解決に向けて努力していますか。

87.1% (生徒)、85.0% (保護者)

- あなたは、学習面での課題について、自ら計画的に追究したり、筋道を立てて考えたりして解決していますか。

79.4% (生徒)、53.8% (保護者)

- あなたは、自分には良いところがあると思いますか。

78.5% (生徒)、84.2% (保護者)

- あなたは、自分がみんなの役にたっていると実感したことがありますか。

68.8% (生徒)、67.9% (保護者)

- あなたは、自他を尊重し互いに認め合いながら、人間関係を築いていますか。

84.9% (生徒)、79.6% (保護者)

- あなたは、規則正しい生活習慣を身に付け、健康で安全に生活をしていますか。

83.5% (生徒)、69.2% (保護者)

- あなたは、創意工夫しながら、ものごとを最後までやり抜いていますか。

84.8% (生徒)、65.7% (保護者)

- 教育活動の目標を達成するための具体的方策

(1) 教科指導

① 学習機会の保証、授業時数の確保及び年間指導計画に基づく指導を行うことができた。

② 数学科、英語科は少人数指導を取り入れ、工夫した授業により、基礎学力の定着を図った。

・黒板の書き方やプリントなど工夫している 91.3% (生徒)

49.8% (保護者) (わからない 34.4%)

- ③ 体験的な活動や問題解決的な学習を取り入れ発表場面を多く設定した。
・授業では、生徒の話合いや発表などの機会がある 93.5% (生徒)
80.1% (保護者)
- ④ コンピュータやプロジェクタ等のICT機器、視聴覚教材などを適切な活用を図った。
・映像やタブレットなどのICTを利用している。 90.3% (生徒)
59.7% (保護者) (わからない 24.4%)
- ⑤ 評価場面を工夫し、目標に準拠した、適正で信頼される評価を実施している。
分かりやすく評価している 80.2% (生徒)
- ⑥ 学習の補完のために長期休業中の補習や数学、英語の放課後補習、定期考査前補習等の充実を図った。
- ⑦ 特別支援教育校内委員会の内容を充実させ、一人一人に寄り添い、個々の課題に応じた指導方法、支援方法を考え、実践する方策を講じた。

(2) 道徳

- ① 「人格の完成を目指して」の取組において、月1回、教員による講話等に基づく全校共通テーマによる、創意工夫ある道徳の時間を実施した。
- ② 教科書の活用に加えて、答えが一つでない道徳的な課題などを取り上げ、多面的・多角的に深く考えたり、議論したりする指導の工夫を図った。
- ③ 道徳授業地区公開講座の時程や協議会の内容について工夫した。

(3) 特別活動

- ① 学校行事や生徒会活動を創意工夫し、発表の場を多くするなど、生徒の主体性や創造性を育てる取り組みを行った。

学校行事は、楽しい 95.8% (生徒)
87.8% (保護者)

(4) 総合的な学習の時間

- ① 職業調べやプロジェクトトークなどを通して、「キャリア教育」の視点を活かす取組の推進に努めた。

(5) 生活指導

- ① 全ての教育活動を通して、挨拶、言葉遣い、時間厳守等の基本的生活習慣の確立を目指した指導、学校のルールについて生徒に考える指導に取り組んだ。
学校での過ごし方やルールについて考えて行動している。 93.6% (生徒)
- ② 生徒とのかかわりを通して、問題行動への予防対応や早期対応を心掛けた。
いじめに関する調査を3回実施するとともに、「いじめ防止プログラム」を実施した。

先生は、いじめなどの問題行動に対して、しっかりと対応している。

73.4% (生徒)

- ③ 生活指導部及び特別支援校内委員会での情報共有、対応協議の充実を図り、関係機関やSC等の専門家と連携して、配慮ある指導、支援と生徒の心のケアに努めた。

(6) キャリア教育

- ① 「キャリア・パスポート」の活用を通して、主体的に学びに向かう力、自己実現に向けた意欲、態度の育成及び自ら進路を選択する能力の育成を図る。
「キャリア・パスポート」に書いた目標について、行動している。

80.3% (生徒) 63.8% (保護者)

- ② 生徒の発達段階に応じて、職業調べ、上級学校の先生の話を聞く会、プロジェクトトークなどを通してキャリア教育の推進を図った。

進路や将来のことについて考える機会がある。 66.5% (生徒)

61.6% (保護者)

(7) 特色ある教育活動

- ① 芦花小学校との校舎一体型の特色ある教育環境を生かし、小・中合同の朝礼や避難訓練、教科等において中学生が小学生に教える取組を実施した。

4 地域とともに子どもを育てる教育の評価

(1) 地域の教育資源の活用、地域が参画する学校づくり

地域のまつりや中学生のつどいなど地域行事が、生徒が地域で活躍する機会が、着実に増えてきた。教科日本語や特別活動等において、地域の人材との連携のもと様々な教育活動を推進した。また、事業所等の連携のもと、職場体験やボランティア体験を実施することができた。

5 未来を担う子どもを育てる教育の評価

(1) 知力の育成

日常の授業に加え、個々の必要に応じて、タブレット端末を活用した学習及び家庭とのやり取りにより、日常的な学習の保証等に努めることができた。夏季休業中には、自習・質問教室型の学習教室を実施するとともに、放課後補習、定期考査前補習等を実施し、個に応じた指導に取り組んだ。

(2) 学びを支える体験活動の充実

体育祭や学芸発表会等、生徒が一体となって取り組む体験活動を充実させ、豊かな人間性を培い、互いが学び合い、支え合う教育を推進した。

(3) 11年間を見通した質の高い学校教育の実現

小・中9年間の学舎全体の研究会などの事業を通して、小学校と教科の関連性や継続性について、理解を図る取り組みを行った。

(4) 豊かな人間性の育成

「特別な教科 道徳」の時間や「人格の完成をめざして」の教育活動を通して、

思いやりの気持ちや規範意識を育て、思いやりがあり正義感のある生徒を育てた。不登校生徒や配慮をする生徒に対し、特別支援教育コーディネーターを中心とする「特別支援校内委員会」の充実を及びSCとの連携等組織的な対応を進めた。

6 信頼と誇りのもてる学校づくりの評価

(1) 教員の資質能力の向上

質の高い授業の実現を目指し、都研究指定事業である「授業改善推進拠点校」として最終年度の取組として、研究構想に基づく、授業研究の実践、効果検証に全教員で取り組むことができた。質の高い授業及び社会性や豊かな心を育む教育活動の充実に向け、授業改善の研修を充実し、年間複数回の研究授業を実施した。

また、教科ごとに、生徒による授業評価を行い、結果に基づき授業改善に取り組んだ。生徒による授業については、生徒より高評価を得ることができた。

(2) 信頼される学校経営の推進

校長の学校経営方針、学校運営方針が明示され、組織的な学校運営、協力体制が十分にできている。

(3) 安心できる学校づくり

健康で楽しくいきいきと活動できる学校を目指して、学校施設の再点検をするなど安全性の向上に努める。生徒の安全確保を図るため、家庭や地域と協力して安全対策を講じ、生徒が安心して生活できる学校づくりを推進した。

・学校は安心・安全な学校づくりを進めている。 100% (地域)

78.3% (保護者)

7 教育環境の整備の評価

○施設、設備の改善により、好ましい学校の教育環境になっている。

○日常的な施設、設備の管理や点検は適切に行われている。